

グリーンワークかがわ公開セミナー

【2011年度】

第6回 2012年3月25日

テーマ：喪失と自分さがし～社会的紐帯の回復のために～

講師：花岡正憲 グリーンワークかがわ理事

はじめに、参加者一人ひとりが喪失という視点から重要な他者を特定し、その人の自殺を防ぐために有効と思える言葉を考えてみる中で、愛着関係が深い人と赤の他人との自殺予防の違いは何なのかについてグループで話し合った。

「心の理論」とは、他者の心の動きを推し量る能力のこと、正確には、人の信条、感情、願望、希望、意図などの精神状況 (mental state) を理解しなければいけないとすることができる能力のことである。それは、他者の感情ないし思考を想像する手段でもある。もし、人の行動とその人の内的感情を結びつける能力がないとしたら、「心の理論」の欠如のために、誰かの行動を理解したり、予想したりすることが難しくなる。人が悲しんだり怒ったりする理由が理解できないために、他者の行動の意味が理解できなくなる。

こうした「心の理論」が課題となるある場面を想定して、参加者一人ひとりが他人の行動からその人の心を推測する能力について考えてみる機会とするために、以下の要点を踏まえグループ討議を行った。

横断歩道の端で立っている人(対象)がいる。そこへ車が通りかかろうとしている。あなたは観察者である。

- ① あなたは、当事者(運転手、行為者)がどのような行為をとると予想するか。
- ② あなたは、そうした行為をとったときの対象(歩行者)の反応(マインド)はどのようなものだと想像するか。
- ③ あなたは、行為者のどのような行為を是認できるか。あるいはできないか。

ここでは、あなたは観察者ではあるが、あなたは当事者(運転手)という立場にもなることがある。そのとき、観察者であるあなたは、当事者であるあなた自身を観察することになる。

- ④ そのとき、公平な観察者であるはずのあなたは、当事者であるあなたのどのような行為を是認できるか。あるいはできないか。

18世紀のスコットランドの経済学者アダム・スミスは、その著書『道徳感情論』

の中で、人間の本性は自分の利益を考える存在であるが、それのみではなく、自分に利害がなくても、他人の運不運、幸福に関心を持ち情動を引き起こす存在であり、利己心と同感のバランスによって社会の秩序と繁栄が形成されると述べている。人間は他者の視線を意識し、他者に「同感 (sympathy)」を感じたり、他者から「同感」を得られるように行動する。この「同感」という感情をもとにし、人は具体的な誰かの視線ではなく、「公平な観察者 (impartial spectator)」の視線を意識するようになる。「公平な観察者」の視線から見て問題がないように人々は行動し、他者の行動の適宜性を判断することにより、社会がある種の秩序としてまとまっているとされる。このように社会は「同感」を基にして成り立っているため、社会は「慈善」をはじめとした相互の愛情がなくとも成り立ちうると論じている。

この点で、「心の理論」は、スミスの「同感」や「公平な胸中の観察者」と関連があるとの解説を行なった。

最後に、他者に関心を持ち、他者の心の動きを敏感に感じとり、他者と真剣につながるため体験場面として、初対面の人と面談を行い、その人の信条、感情、願望、希望、意図にそって、その人を周りの人に紹介する演習を行ない、紹介者、被紹介者、観察者の間で意見交換を行った。